

2019年4月号

FP 武蔵野グループ



“つみたて NISA をやってみた”

FP 武蔵野グループ (CFP、CMA)

森内茂樹

皆さんご案内のように個人型確定拠出年金 (iDeCo) が 2017 年 1 月から対象者が、専業主婦や公務員などにも拡大され、一気にすそ野が広がりました。また従来の NISA に加え、つみたて NISA の制度も 2018 年 1 月から始まりました。職業柄、ここ 1 年あまり、いろいろなセミナーで iDeCo やつみたて NISA の説明をし、またお勧めもしてきました。あるとき、妻から「説明をしているあなたがやらなくていいの？」言われ、「それもそうだ」ということで、早速自分でもつみたて NISA をやってみることにしました。(iDeCo は 60 歳の方までしかできませんが、つみたて NISA は 20 歳以上なら誰でもできるので 64 歳の私でも OK です。)

- ・開始日 2018 年 3 月 (毎月 13 日積立)
- ・取引金融機関 某メガバンク
- ・積立額 3 万円/月
- ・投資対象 新興国株式インデックス型投資信託

一般的な資産運用セミナーでは、リスクを低減する方法として分散投資の話をしてします。さらに分散投資には資産分散、地域分散、時間分散という考え方があり、つみたて NISA はこの時間分散の考えに基づいたものです、というように展開していきます。また、積み立て投資には、ドルコスト平均法というものがあり、毎回一定金額を投資し続けることにより

全体の投資単価を下げるという効果が得られます、という話をします。

さて、スタートから 1 年間の私の投資成果はどうだったでしょう。また、私がセミナーで皆さんにお話ししているような時間分散の効果は果たして得られたのでしょうか？ 早速検証してみました。

【図 1 累積元本、時価評価、評価損益率】

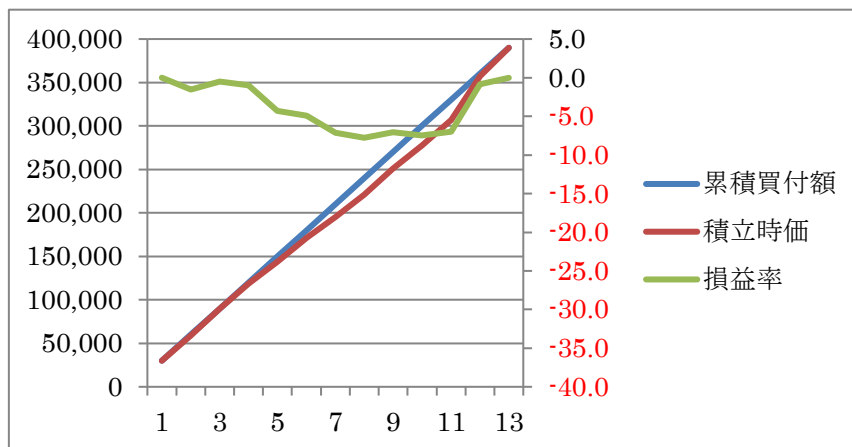
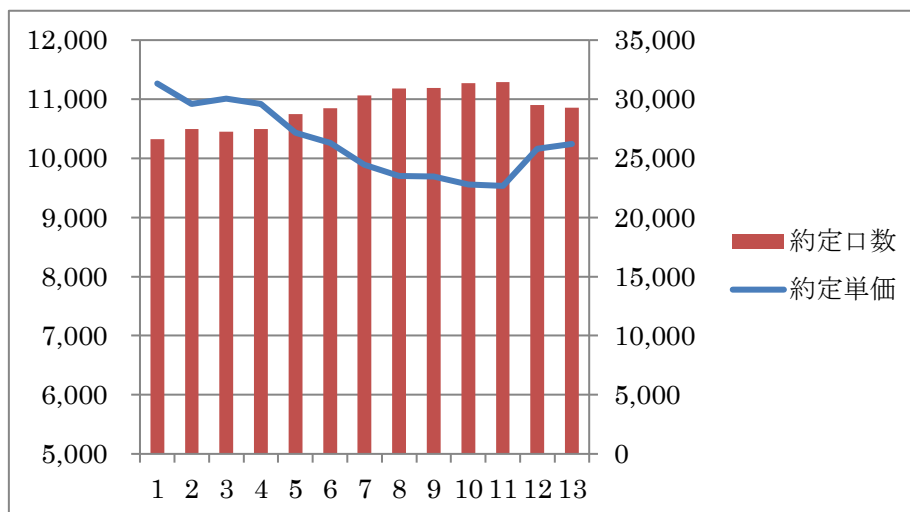


図1でわかるように、投資成果については、1年間の積み立て元本39万円に対して、昨年後半相場が下落したこともあり、途中5%程度の評価損が出ましたが、今年に入り相場が持ち直したこともあり、3月現在の投資時価は39万円とほぼトン、という結果となりました。

さて、時間分散の効果はどうだったでしょうか？

【図2 約定単価と約定口数】



この図で分かるように、相場が高いときには買付約定口数は少なく、相場が下がったときには多く買えたことがよくわかると思います。まさにドルコスト平均法ですね。その結果、

このファンドの基準価額は、昨年のスタート時より現在まだ1割程度低いのに、資産はほぼ元本まで戻しています。つまり安いときにたくさん買えたドルコスト平均法や分散投資の効果が出た、ということだと思います

まとめ つみたてNISAをやってみて感じたこと、わかったこと

1. 株式投資と違い相場の動きに一喜一憂しない方がいい。何とんでも、どうあがいてみ

でも月に1度、決まった日にしか買えませんから。

2. 投資を長期的な視点で考えるようになった。月々3万円と少額なので損得はあまり気にならないです。ゴールは20年後と考えると、まあ、のんびりやるか、という気持ちになります。
3. 特徴的な1年だったのかもしれませんが、分散投資、ドルコスト平均法の効果ははっきり出たのにはびっくりしました。私がセミナーで皆さんにお話ししているのはウソではないことがわかり、ほっとしました。

さあ、皆さんいかがでしょう。これを読んで、それでは自分もつみたてNISA始めてみようか、という方がひとりでも多くいれば、これほどうれしいことはありません。

2019年4月7日 記